くしトピ！ KUSHIMA TOPICS

2/4 市木小児童が鋳造を体験

身近な物であるアルミ缶が再利用できることを知ってもらおうと、市木小学校は鋳造体験を行いました。５、６年生の15人が参加。中学校美術が専門の藤元安春校長が指導しました。児童は初め、各家庭から持ち寄ったアルミ缶を金づちなどで溶かしやすいようにつぶし、その後、しちりんにドライヤーで風を送りながらお玉の上でアルミ缶を溶かし、石こうで作った数字などの鋳型に流し込んでいました。最後にやすりを掛けて作品を完成させていました。６年生の和田悠人くんは「エコにつながるように、リサイクルを頑張っていきたい」と話していました。

アルミ缶を使用して鋳造を体験する児童たち

2/6 都井岬で春を呼ぶ「野焼き」

現在、88頭の岬馬が生息しています

国の天然記念物に指定されている野生馬の岬馬が生息する都井岬で、毎年恒例の「野焼き」が行われました。ダニなどの害虫駆除や芝の新芽を促すための伝統行事で、今回は都井御崎牧組合の組合員ら約40人が参加。軽油を浸した布を詰めた竹の棒で枯れ草に火を放つと、あっという間に燃え広がり、馬たちは火や煙を避けて安全な場所に移動していました。同岬では、早ければ３月上旬には新芽が芽吹き始め、４月中旬ごろから「春駒」の出産シーズンを迎えます。同組合の迫田幸四郎組合長は「春駒の出産シーズンになったら多くの人に見に来てほしい」と話していました。

2/13 福島高生が旧吉松家住宅にひな壇飾り設置

毎年、旧吉松家住宅で行われる「吉松邸ひなまつり」を前に、福島高校インターアクト部の生徒がひな壇飾りの設置を行いました。通常は同宅の職員が２～３週間かけて準備を行いますが、今回は高校に依頼しボランティアで同部の生徒25人が協力。生徒たちは、職員からの説明を聞いたり図面を見たりしながら、三人官女や五人ばやしなどのひな人形などを配置し、約２時間かけてひな壇飾り10基を完成させていました。同部部長の吉成真奈さんは「こまごまして難しかったが、完成できてよかった。いろいろな人に見てもらえたらうれしい」と話していました。

ひな壇飾りは３月末まで設置されます

市長コラム

感動した北京オリンピック

世界ではミャンマーのクーデターによる国内紛争や、ロシアとウクライナ情勢など、平和が危ぶまれる事態が起きており、対岸の火事とはいえない状況です。戦争は悲しみしか生み出さず、決してお互いの幸福は生まれません。

一方で、平和の祭典である「北京オリンピック・パラリンピック」が2月4日から行われており、世界中にたくさんの勇気と感動を与えてくれています。日本選手は素晴らしい活躍で、冬季オリンピックとしては過去最多のメダル獲得となりました。特に感動したのは、オリンピック初出場にして銀メダルを獲得したフィギュアスケートの鍵山優真選手です。元オリンピック選手である父の影響で5歳からスケートを始め、父子で血のにじむような努力をして夢をつかみました。早朝も夜間も相当な練習をしてきたということで、まさに「千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を錬とす」という江戸時代の剣術家である宮本武蔵の言葉のとおりです。また、4回転ジャンプ失敗など精彩を欠いた同スケートの羽生結弦選手や、スーツの規定違反で失格になったスキージャンプの高梨沙羅選手など、悔しい思いをした選手もいましたが、これまでの努力や、結果を求められる重圧などを考えると、その姿に拍手を送り、健闘をたたえたいと思います。メダルを取ることはもちろん素晴らしいことですが、出場するまでの過程や努力、持てる力を出し切る姿勢など、その全てをたたえることこそが平和の祭典としてふさわしいと思います。世界の平和も、お互いの人権を尊重し、争うことなく、人と人とのつながりを大事にできる世の中であれば、実現できると考えています。

スポーツ界だけでなく、さまざまな分野で若者の活躍が注目されています。学校の卒業など、この春から新たなスタートを切る方も多いと思います。本市としても若者が活躍しやすいまちづくりを進めてまいりますので、串間の若者も勇気をもって串間の発展にロマンを掲げ、社会のリーダーとして進んでもらいたいと思います。若者の努力する姿は、串間市民に感動と勇気を与えてくれます。期待しています！

旧吉松家住宅の「吉松邸ひなまつり」を前に、ボランティアでひな壇の飾り付けを手伝った福島高校生の皆さん

地域おこし協力隊

活動日記

No.59 想いをカタチに

甲斐舞子さん

先日、串間市の農業女子「キラリ☆くしま」のロゴマークをデザインさせていただきました。長い間人々の暮らしに関わるデザインを数多く手がけてきたデザイナーとして、また、今後農業に携わる人間として、このような形で関わりを持てたことはとても光栄なことだと感じています。

ロゴマークというものは、会社やお店、団体などにとっていわば「アイデンティティ・顔・家紋・旗」ともいえる大事なもの。名刺やパンフレット、ホームページ、看板、SNSなど、あらゆる場面で使用され、会社やお店、団体などの想いを表現するもの、会社や商品の価値を生み出すもの、そして気持ちを奮い立たせるもの。ロゴマークには、そんな目的があるのです。

ロゴマークをデザインするときに重要視していることは、会社やお店、団体がどんな想いで活動しているのか、何に共感してもらいたいのか、その想いを可視化すること。例えば、アップル、コカ・コーラ、スターバックス、ナイキなど、パッと見てかっこいいデザイン性のあるロゴマークも、伝えたい想いが必ずロゴマークに込められています。

串間市役所農業振興課の小城ゆりさんからロゴマークデザインのご依頼をいただき、農業女子「キラリ☆くしま」が何を伝えたいのか、何に共感してもらいたいのかを調べました。そして持続可能な農業実現のため、女性農業者だからこそできる地域振興や食育、次世代につなぐことをコンセプトにデザインしました。家族や地域、消費者とのつながりの輪、そして永遠に続く次世代の継承を円形のデザインで表現し、串間の女性農業者の元気さや農業の楽しさ、そして太陽や水などの自然の恵みや串間で生産されている多様な農産物を、カラフルな文字や大地で表現しています。農業女子「キラリ☆くしま」という名前の通り、串間の女性農業者がキラキラ輝きながら、これからもずっと地域農業を盛り上げ支える存在として活躍されることを応援しています。